



世界へ羽ばたくプロゴルフの岡本綾子

1年生のつもりで
米国修行してきます

〈岡本綾子選手のプロフィール〉
昭和26年4月2日、広島県生まれ。中学からソフトボールを始め、今治明德高校を経て、大和紡績で左腕エースとして活躍、国体に優勝。47年、退社してゴルフを始め49年のプロテストに合格。パワフルなゴルフが身上で、56年、日本女子プロ史上初の3,000万円プレーヤー。57年、LPGAツアーのアリゾナ・コバー・クラシック優勝。大和紡績所属。

インタビューー
地平 達郎

——今年一年をふり返って、最も印象に残ったことから、お聞かせください。
岡本 シーズン初めは、米国のツアーに参加して、果たしてどれくらいいけるかっていうことが、すごく不安でした。まず小手調べをして、一年間ツアーに参加しようっていう予定でしたから、自分が本場で一年やれるかどうかという……

——来年一年、米国でプレーされるというのは、当初から計画されていたわけですね。
岡本 そうなんです。でも、第一戦は予選落ちして、そのあと五戦目のアリゾナ・コバー・クラシックに優勝したんですが、私自身まさかそんなに早く勝てるなんて、思ってませんでしたね。

——米国のLPGA（全米女子プロゴルフ協会）ツアーに参加して、二年目です。たしか樋口久子さんの場合は、六年目に初めてLPGAのタイトルを取っています。
岡本 それに、びつくりしたのは、自分が考えている以上に、まわりの人たちはツアーの優勝について、評価しているんですね。日本で、あんなに騒いでいるなんて、知りませんでした。

——本場の米国で、むこうのプロにまじってタイトルを取るといえるのは、すばらしいことなんですかね。
岡本 でも、そのあとは疲れが出て納得のいくゴルフができなかったんです。私って、昔からいい時と悪い時の波が大きくて、それが欠点だったんですが、今回もそれが出てしまったんです。

——ところで、今年はずっと米国のツアーに出られるそうですが、これはいつから考えていたことですか。
岡本 昭和四十七年に大和紡績井のソ

フトボール部をやめたときから、一年くらい米国にいつてみたいと思ってました。当時、貯金は往復の旅費を出せるくらいはあったんですが、生活費まではないんであきらめました。

——ちょうどそのとき、ソフトボール部の部長が、ゴルフをやったらどうかって勧められて、練習場へ三回ほど通って、ゴルフのPROになろうと決めたんです。

——たった三回で、ゴルフのPROにというのは、やはり、何かピンとくるものがあつたんでしょうね。そして、今年是一年間、本場でプレーするわけですね……。

——とにかく、米国で長く生活するのが私の夢だったんです。今は、その夢がようやくかなって、すごく嬉しいですね。

——でも、当初は日本女子プロゴルフ協会の方で、反対がありましたね。協会としては、「目玉商品」の岡本さんがいなくなると、国内トーナメントも迫力がなくなるといふようなことで……。

——そうなんです。でも、プロの間はみんな賛成してくれました。とくに樋口さんは、がんばってやってらっしゃいと励ましてくれました。

——そうですか。さすが樋口さんですね。やはり、プロというのは日本でいい試合をすることも大事ですが、本当の実力をつけることも、それ以上に大事なんだと思います。ところで、この一年間の目標は何ですか。

——それが、なかなか自分でも見つけられなくて、何日も考えてみたんです。それで、ようやく見つけた結論は「プロテストに受かったときの、あの気持ちでいこう」ってことなんです。とにかく、

不安と期待で胸がいっぱいなんです。
——昨年、ツアーに参加したといつても「パート」と「専従」じゃ、まったく違うでしょうね。

岡本 私は、四十九年にプロテストに合格したんですが、あの頃のような気持ちで、初心にかえってやってやろうというのが、私の結論なんです。

——そうですね、がんばってくださいね。ところで、プロゴルフ界で賞金や待遇に関して、男女の差を感じたことはありますか。

岡本 現在、男子の方が賞金額は高いですから、もう少し増やしてほしい気持ちはあります。でも、ゴルフの場合、男子は確かに、女子よりパットも上手だし、もちろんボールの飛距離だって女子はかないません。男子は、見る人が金を払うだけの価値があるプレーを見せていますよね。ですから、賞金額が男子の方が高いというのは、当然のことだと思います。

——米国のWSFは、テニスのキング夫人の「男女のトーナメントの賞金額を同じにして欲しい」という考えのもとに作られたんですが、女性スポーツのこうした不公平をなくしていこうというWSFやWSF・Japanの運動について、どう思いますか。

岡本 私には、よく理解できません。実際に男性と女性とは全く違うし、技術的には男性の方が上なんです。

——米国でのご健闘をお祈りします。（昭和57年12月17日取材。このあと12月27日、米国に向け出発。1月27日から始まるマツダクラシックを皮切りに、9月下旬に行われる日米対抗戦までの間に、約30試合に出場の予定。「目標は公式戦ベスト10」とのこと）